



《プルーン・すもも》

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期・・・5月24日(水)～5月28日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調合量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
アーデントフロアブル	50mℓ	シンクイムシ類	前日まで
トレノックスフロアブル	200mℓ	灰星病	14日前まで

3. 散布量・・・10a当り⇒400ℓ 以上

4. 留意事項

- ①アーデントフロアブルに代えて㊸オリオン水和剤 40 の1,000倍(水 100ℓ 当り 100g・収穫 7 日前まで)を使用しても良い。
- ②果実同士が密着していると、果実に薬液がつかず、病虫害の発生を助長するため注意する。
- ③展着剤を「まくぴか」10,000倍(水 100ℓ当り 10mℓ)にすると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。
- ④ノズル噴口は1.0mmを主体に使い、圧を上げ細かい霧でタツプリかける。
鉄砲噴口等でジャージャーかけると、ブルームが流れ、雫がたまると薬斑になる。
- ⑤散布は10日間隔を基本とする。

◆あら摘果・仕上げ摘果を行う

あら摘果は、満開後30日頃になると、受精・不受精の確認ができ、適期となる。

第3期の生理落果が6月にある。摘果が遅れ結実量が多いと生理落果につながるため、遅れないように実施する。なお、隔年結果するため結実量が多い場合は特に適正着果に努める。

1. 仕上げ摘果の時期・・・果実が親指大になった満開後50～60日頃(5月末までに)
2. 摘果の順序・・・品種の特性・樹勢の強弱・着果の多少を見ながら仕上げる。

《オウトウ》

◆着色管理について

オウトウの着色は多くの日射量が必要。より直接多くの光を果実に直接当てたい。

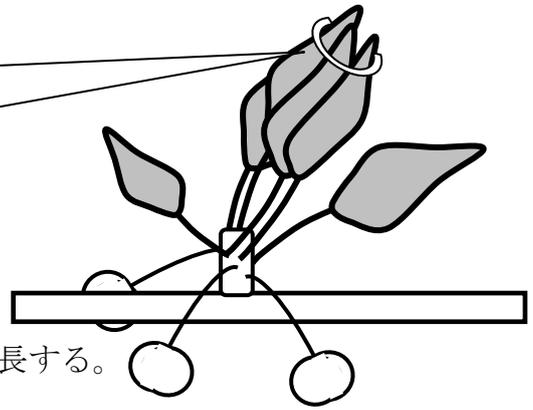
1. 葉つみ時期と程度

- ①果実の着色が進んでから行う。⇒収穫の7～10日前が目安。
- ②早期の葉つみは逆に着色が遅れたり、鮮やかな仕上がりにならない。ウルミ果も多くなる。
- ③過度の葉つみは樹勢や翌年の花芽に影響するとともに、果実品質(糖度や果重)に影響する。
- ④樹勢が悪い場合は葉つみを行わず樹勢回復を優先させる。
- ⑤果実に覆いかぶさっている葉を中心に、果そう葉の1/3程度を限度に行う。

2. 輪ゴムによる着色向上技術の留意点

- ①花束状短果枝の葉を輪ゴムで束ねる。
- ②輪ゴムは8～10号の小さいサイズを用いる。
- ③束ねる位置は葉の先端とし、葉柄や果柄とからまないようにする。
- ④時期は葉つみと同じ。

- ・収穫しやすい。・輪ゴムは回収しやすく、葉を痛めない。・束ねる葉が多いと病害虫（特にダニ）の発生源になる。・束ねる葉は最小限にし、収穫が終了したら速やかに撤去する。



3. 反射シートの使用時期と留意点について

- ①果実が着色し始めた頃に使用する。
- ②全面に反射シートを敷くと返ってウルミ果の発生を助長する。
⇒敷設面積は、50～70%を目安とする。
- ③枝つき、誘引、徒長枝整理等の管理を行い、光が反射シートに届くようにする。
⇒園内が混んでいれば反射シートを敷いても効果はない。
- ④十分に着色した後も反射シートを敷いておくと、逆にウルミ果の発生が多くなる。
⇒着色したら取り除く。

◆特別薬剤散布の実施について

1. 散布時期・・・収穫中（散布後24時間は、収穫できない） 実際散布日記入 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
㊦テルスターフロアブル	25ml	オウトウショウジョウバエ	前日まで
ナリアWDG	50g	灰星病	前日まで

3. 散布量・・・10a当り⇒400ℓ

4. 留意事項

- ①発生が心配される園は、特別散布する。但し、収穫中品種への農薬飛散に注意する。

《なし》

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期・・・6月1日（木）～5日（月） 実際散布日記入 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
㊦ダイアジノン水和剤34	100g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	14日前まで
オキシラン水和剤	200g	黒斑病・輪紋病	3日前まで

3. 散布量・・・10a当り⇒棚栽培450ℓ／立木栽培500ℓ以上

4. 留意事項

- ①有袋栽培の場合は、今後オキシラン水和剤の倍率を600倍（水100ℓ 当り 166g）で使用しても良い。
- ②㊦ダイアジノン水和剤に代えて、スミチオン水和剤 40 の1,000倍（水100ℓ 当り 100g）を使用しても良い。

◆袋かけについて

1. 薬剤散布後10日を過ぎるか25mm以上の降雨に合った場合は、袋かけ前に再度オキシラン水和剤600倍（水100ℓ 当り 166g）を特別散布し果面消毒する。実際散布日記入 月 日
2. 日本なしの場合、雨水等果実袋内へ流れ込まないように、留め金は果柄にしっかり巻き付ける。袋をかける果実は、果台の向きが「横」あるいは「斜め上」とする。結実不足の場合は、向きにこだわらず、数量確保をする。
3. 豊水については、完全無袋栽培とするので袋はかけない。

◆西洋ナシの袋かけ実施について

1. 袋掛けの時期 遅くも6月中旬頃までに掛け終えたい。
輪紋病の感染時期から見ると、できるだけ早い方が良い。
2. 袋掛け前の特別散布
降雨に遭う前に袋掛けを行うが、薬剤散布後10日を過ぎるか、25mm以上の降雨にあった場合、袋掛前に再度オキシラン水和剤600倍（水100ℓ 当り 166g）を特別散布する。

《ウメ》

◆中梅・大梅の第5回薬剤散布について

1. 散布時期…5月27日(土)～6月2日(金) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量…水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
イオウフロアブル	166ml	黒星病	—

3. 散布量…10a当り⇒500ℓ
4. 留意事項
 - ①黒星病の被害を防ぐため、この回までの散布は大変重要。
 - ②汚れ軽減のため展着剤を「まくぴか」10,000倍(水100ℓ当り10ml)に代えてもよい。
 - ③収穫まで散布間隔が12日以上空きそうで、降雨が多い場合は再度イオウフロアブル600倍(水100ℓ当り166ml)を特別散布する。

《あんず》

◆第6回薬剤散布の実施について

1. 散布時期…5月24日(水)～28日(日)(収穫2週間前) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量…水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200g (158ml)	ほう素欠乏対策用葉面散布肥料	—
ストロビードライフロアブル	50ml	灰星病・炭そ病	7日前まで

3. 散 布 量…10a当り⇒400ℓ
4. 留意事項
 - ①灰星病の発生時期に入るので、果実を洗うように丁寧に散布する。
 - ②ストロビードライフロアブルに代えてフリントフロアブル 25 の2,000倍(水100ℓ当り50ml・収穫前日)を使用しても良い。
 - ③シンクイムシ類の発生が心配させる園は、㊸オリオン水和剤40の1,000倍(水100ℓ当り100g・収穫7日前)を加用散布する。

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期…収穫直前 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量…水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
オンリーワンフロアブル	50ml	灰色かび病・灰星病・黒星病	前日まで
㊸バリアード顆粒水和剤	25g	シンクイムシ類	前日まで

3. 散 布 量…10a当り⇒400ℓ以上
4. 留意事項

①収穫する品種は、散布後24時間以降の収穫とする。

②降雨が続き散布時期を失った場合でも、晴れ間をねらって必ず散布する。

③品種によっては収穫期に2週間以上の差があるものもあり、標高によっても違うので収穫直前散布を徹底する。

④山形三号が特に弱いので必ず散布後の出荷とする。

⑤バリアード顆粒水和剤に代えて、ダントツ水溶剤4,000倍（水1000当り25g・収穫3日前まで）を使用してもよい。ただし、収穫前規制に十分注意する。

⑥収穫果の灰星病の発生は、共選販売にとって大きな問題となるため、防除の徹底をする。

◆栽培日誌の提出について

1. 提出期限・・・あんず ⇒ 6月5日（月）まで

2. 提出方法・・・役員さんを通じてか、直接流通センター・共選所まで提出して下さい。

3. 留意事項

①栽培日誌をチェックし、法的に問題がある場合は販売できません。

②提出されず出荷された場合は、安全性が確認できないので返品対象となります。

③記帳内容には、不備が無いようにお願いします。

◆杏の個選用出荷資材注文について

ハーコット・ゴールドコット・紅浅間等について共選・個選の両方で行います。個選で行う場合は段ボールとパックの注文を行ってください。

○松代地区・川中島地区へは注文用紙を別途配布します。

○他の地区で必要な方は各流通センターまで取りに来てください。

《共通事項》

◆排水対策について

降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。特に元水田は滞水しやすいので注意する。排水路の設置、草生栽培にて余分な水分を除くなど。

◆かん水の実施及び敷きワラの実施について

晴天が7日以上続いたら20～30^{mm}のかん水を定期的に行い、初期生育を順調に進めることが重要。土壌の乾燥防止として、敷きワラも有効。

《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311